



竜北中図書館通信



令和3年11月（文責：本田）

☆イヌの日～11月1日～

英語で“1”のことを「ワン」といいます。11月1日は1が3つでイヌの鳴き声の「ワンワンワン」となることから『犬の日』とされています。イヌは2万年以上も昔から人間と暮らしてきた一番身近な動物です。

イヌはよく電柱などにおしっこをかけています。それはよそのイヌに「ここは自分のなわばりだから入ってくるな!」と知らせるためです。イヌは、おしっこのにおいて、そのイヌの年齢や性別、体の大きさなどがわかります。そして、相手が自分より弱そうだと思うと、上からおしっこをかけて自分のなわばりにしてしまいます。



『参照：きせつのお話366日（学研）長谷川康男・監修』

☆文化祭の日にMyしおりコンクールをします！

1学期に全校で取り組んだMyしおり作り、今年も大変良い作品ができています。

文化祭の日には、全校生徒で審査をしてもらい、個人賞とクラス賞の優秀作品を決めます。このMyしおり作りの取り組みは、本校で40年程続いている行事でもあります。生徒の皆さんには、真剣に審査をしてほしいと思います。

当日は保護者の方にも審査をして頂けたらありがたいです。よろしくお願いします。



宝をかくしにきたとうぞくのお頭が大きな岩の前で「開け、ゴマ!」とさげふと、重たい岩が動いて、ぽっかり穴が。下の2枚のイラストには5つのまちがいがあります。いくつ見つけれられるかな？



答え

- ① 左上・ターバン
- ② 右上・盗賊の手
- ③ 右・大きな岩
- ④ 左中央・馬
- ⑤ 下中央・盗賊の刀



よかったら、よんでみてね



『教えないスキル ビジリアルに学ぶ』

佐伯 夕利子・作 (小学館)

サッカーの久保建英選手を世に出したビジリアルCF。

ビジリアルCFは欧州やスペインで評価され、そのチームのコーチ120人の中の1人がこの著者の佐伯夕利子さんです。

頑張らせることはできても、自分で考える力をつけるにはどうすればよいかわかります。世界最高品質の人材育成術とは・・・。



『こわーい 空想科学読本 呪われた科学者登場』

柳田理科雄・原作(KADOKAWA)

ハチローが通う古和杉小学校に至仁神先生が赴任してきました。

至仁神先生は、目の前で起こったことや生徒が見聞きした怪奇現象に科学的な態度で分析します。その結果、解明できる現象もあれば、謎が残ることもあり、ゾッとすることもあるかもしれません。

著者は、幽霊やお化けの存在は信じていないそうです。そんな著者の“お化け観”に沿って、この本が作られました。



『他者の靴を履く アナーキック・エンパシーのすすめ』

ブレイディみかこ・作 (文藝春秋)

著者の前作『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』で注目されるようになったのが、“エンパシー”という言葉でした。

“エンパシー”の意味は“他人と自分を同一視することなく、他人の心情をくむこと”だそうです。

昨今、ジェンダーをはじめとする様々な問題に対して、私達はどのように考え、行動していくのか。エンパシーは、各人が持つ偏見や先入観をはずすことであり、多様性を認め合う社会につながるということに気づきます。



『水を縫う』

寺地はるな・著 (集英社)

高校1年生の松岡清澄は、クラスの自己紹介の時に、縫い物が好きだと言ったために、周囲からからかわれてしまいました。

“男らしさ”、“女らしさ”、“母親らしさ”、“父親らしさ”。同じであることを強いる“らしさ”の呪縛・・・。

人と比べることなく、自分らしく生きていきたいと思える作品です。